

## ナラ枯れにご注意ください

世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課

### ○ナラ枯れとは？

ナラ枯れとは体長5mm程のカシノナガキクイムシがナラ菌を伝播することでナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らす樹木の伝染病です。カシノナガキクイムシが孔をあけて木の幹に入り、運搬してきたナラ菌の作用により樹木は通水機能を失います。その結果、葉が枯れ、最悪の場合樹木が枯死するなどの被害を受けます。

以前は主に西日本で被害が発生していましたが、近年は被害地域が拡大し、数年前からは世田谷区内でも確認されています。区内の公園などでは特にコナラを中心に被害が報告されています。

### ○年間サイクル

5月末頃～：新成虫が羽化・飛翔する。

7月～8月頃：集合フェロモンにより誘引され多数の成虫が特定の樹木に集中的に穿孔を行う。（写真1のように大量の木くずが木のまわりに積もる。）

7月～9月頃：ナラ菌の作用により通水機能を失い急速に葉の色が赤褐色に変わり最悪の場合、枯死に至る。（写真2のように葉の色が赤褐色に変わる。）

8月頃～翌5月頃：幼虫は幹の中で酵母菌類を餌に成長する。  
幼虫のまま越冬し、春に蛹化し の繰り返し。

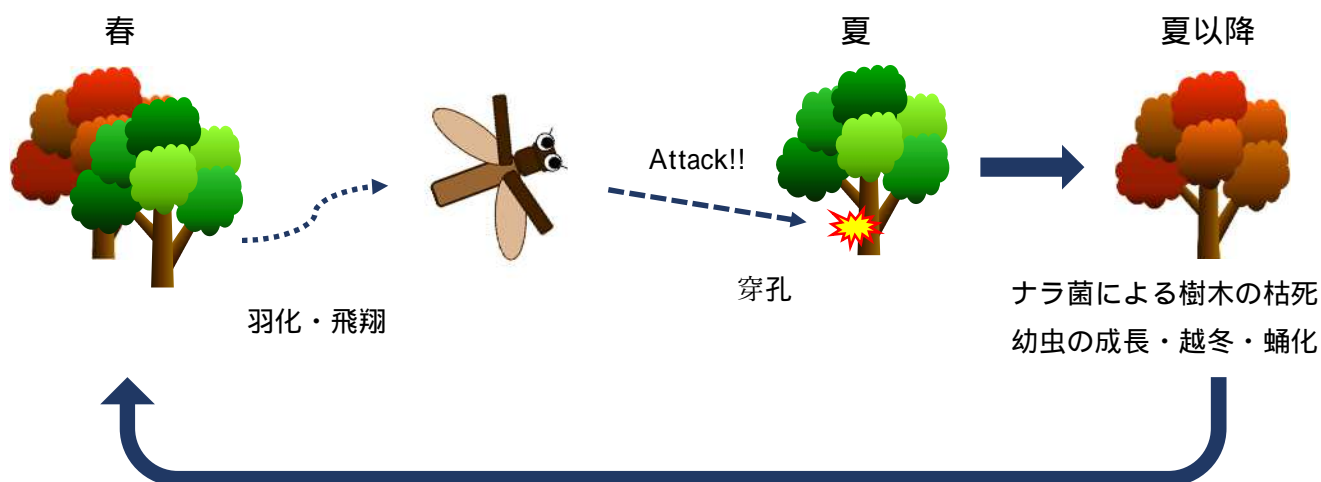




写真1 根元に積もる大量の木くず(7~8月頃)



写真2 葉が赤褐色になった様子

## ○見分けと対策

コナラなどで以下のような症状がみられた場合はナラ枯れの可能性があります。

紅葉シーズンより前(7~9月)に、葉がすでに赤褐色に枯れている

木の幹につまようじが刺さるくらいの小さな孔が開いている(6月頃)

木の根元に木くずが積もっている(7~8月頃)

ナラ枯れの対策には薬剤の樹幹注入や虫を捕獲するトラップなどがあります。菌の増殖を抑える樹幹注入は被害が出る前の段階や被害の初期に行います。また、ナラ枯れにより立ち枯れた樹木をそのまま放置した場合や伐採材を放置すると、そこからカシノナガクイムシが大量に飛び立つ恐れがあります。被害翌年の3月までに伐採し樹木は焼却処分や燻蒸処理を行うことで周辺の樹木へ飛散の防止ができます。周辺の被害拡散予防にご協力お願いいたします。

・コナラの見分け方：葉が写真3の様な形をした樹木で、秋にはドングリをつけます。

## ○お問い合わせ・ご相談

(ナラ枯れ対策の実施や伐採等の相談)

(一社)世田谷造園協力会

03-3307-0721 FAX03-3307-0774



写真3 コナラの葉

世田谷区内にある造園会社の任意団体です。

加入しているお近くの会社の紹介を受けることができます。

お電話の際、「造園協力会に相談したい」とお伝えいただくとスムーズです。

複数社見積りを取るなど、ご納得されてから依頼されるようお勧めします。

(本案内や一般的なナラ枯れに関すること)

世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課

03-6432-7904 FAX03-6432-7989